

ERIC 通信 第 11 号

2001 年 9 月 12 日発行

国際理解教育センター

International Education Resource&Innovation Center

〒114-0013 東京都北区東田端 1-14-1 岩瀬ビル

TEL 3800-9414 FAX 03-3800-9410

eric-net@try-net.or.jp http://www.try-net.or.jp/~eric-net/

ERIC がいま取り組んでいることは？

- ・ 人権尊重社会に向けての人権教育
- ・ 男女共同参画社会の構築
- ・ 持続可能な社会における環境教育
- ・ コミュニティにおける対立の解消
- ・ グローバルな課題に応える開発教育
- ・ 総合的な学習指導のための教育力向上
- ・ 自尊感情を育てるコミュニケーション能力育成

なぜこれらの課題について、参加型手法が有効なのでしょう。

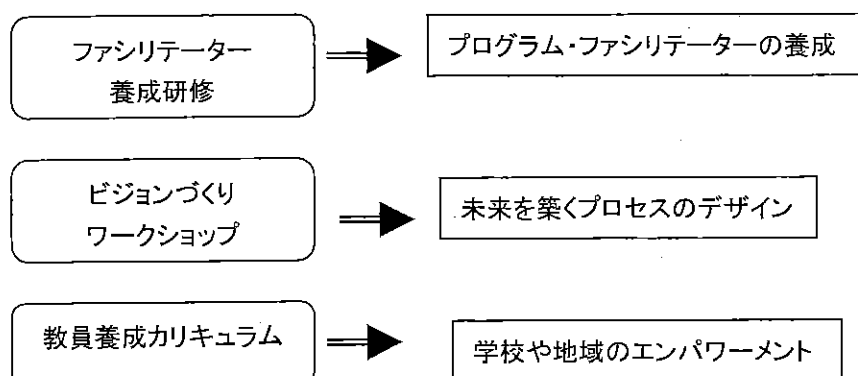
生涯学習社会の時代になって、新しい教育課題として環境、人権、国際化、情報化、高齢化などわたしたちの社会が直面するさまざまな課題について、共通理解を持ち、また問題解決に取り組む市民の育成が急務になっています。主体的に学習し、主体的に行動する市民によって構成される市民社会においては「参加」が鍵になるのです。参加型手法とは、参加を通して参加を学ぶ優れた方法です。どうすれば、一人ひとりの思いとビジョンによって望ましい未来を開いていけるか、それを参加によって実現していきましょう。

参加型手法は、わたしたちに共通の課題についての「気づき」と、問題を共に分析し考える「築き」の手法、そして一人ひとりを大切にするスキルを身につけることが出来るものです。自尊感情とアイデンティティにつながる自己理解、互いを尊重し相互理解を進めるコミュニケーション、一人ひとりが尊重される社会、持続可能な社会のために協力するコミュニティ意識の形成など、自己形成と社会形成の意欲と方法を身につける教育が、ERIC がめざす国際理解教育です。

ERIC の 3 つの課題

- 総合的な学習を学習者の主体的学び、楽しさ、生きる力につなげるための教育技術と手だての共有
- 地域や地球社会につながる学校コミュニティづくりの推進
- 新しい学習課題・グローバルな課題に取り組む生涯学習社会・「学びが先行する」社会のための社会環境整備の基盤としての学校教育の位置付けに向けた提言

ERIC の活動



これらの課題に応える参加型アクティビティ(一つの素材、話し合いの材料を使ったまとまりのある活動)、プログラム・カリキュラムを開発して提供しています。

主催研修報告

<STEP1 「気づき」のアクティビティーによって人類共通の課題にせまる>

1. 「わたしから始まる国際理解」

2001年度第1回目の主催研修である「わたしから始まる国際理解」を6月23日・24日の2日間にわたり、東田端のERIC事務所で7名の参加者を迎え実施しました。

<当日のプログラムは下表の通りです>

6月23日	6月24日
<セッション1> 国際理解とは何か？ <input type="checkbox"/> 連想図 <input type="checkbox"/> 自己理解、相互理解、共通理解のイメージ図	<セッション4> 国際理解教育のプログラムの作成と発表 <input type="checkbox"/> 起承転結(グループ・ワーク)
<セッション2> 私たちの生活と世界のつながり <input type="checkbox"/> クロマグロの悲劇	<セッション5> 国際理解教育のカリキュラムの作成と発表 <input type="checkbox"/> グループ・ワーク
<セッション3> クロマグロの悲劇に続くプログラムの展開を考える <input type="checkbox"/> マグロからツナ缶まで <input type="checkbox"/> ふりかえり	<セッション6> ふりかえり

<セッション1>で参加者各々が描いた「自己理解、相互理解、共通理解」のイメージ図は、当然のことながら皆違っていました。「違うという事が分かった。」というところから研修が始まりました。

<セッション4>のプログラム作成とは、個別のアクティビティーをプログラムというストーリーの中に意味付ける作業のことです。その際「起承転結」という4行の文章にすると考えやすいものです。プログラムという流れにアクティビティーを「乗せる」という感覚です。

<セッション5>では次のような年間のカリキュラムに発展させた例が発表されました。このカリキュラムの対象は中学・高校生。年間35時間を利用して次のような到達目標を定めています。

- 1.自分の良さを知り自分を見つめる。
 - 2.他の人を認め理解する。
 - 3.お互いに尊重し助け合う
- (カリキュラム例)

1学期 (自己理解)	自分発見ノート、発表、他から見た自分(X氏への手紙)、ふりかえり
2学期 (異文化理解)	ハンバーガーはどこから?、…、…、…、
3学期 (共存)	ボランティア活動とは?、…、…、…、

(参加者の感想)

- ・ 煮詰まったときの対処方法が、今回の研修で得られた気がする。
- ・ どこまで行っても枠にとらわれてしまう自分を思い知りました。
- ・ 研修で頭と心が活性化されたようです。 <プログラム提供部 担当 佐藤>

このように ERIC での主催研修では、「気づきのアクティビティー」から「築きのための手法」を体験できるようプログラムを作成しています。

2. 「PLT*(木と学ぼう)環境教育指導者養成講座」

8月21日・22日・23日の3日間にわたり茨城県古河市で7名の参加者を迎え「PLT(木と学ぼう)環境教育指導者養成講座」を実施しました。今回は環境教育が地域の問題解決にどのように貢献できるかをテーマにし、次の3点を研修の目的としました。

1. PLTのアクティビティを通して概念にせまる。
2. ファシリテーターとしてのトレーニングの機会として位置付け、地域住民への環境意識調査を実施する。
3. 問題解決のプロセスをデザインする。

<当日のプログラムは下表の通りです>

8月21日	8月22日	8月23日
<セッション1> 環境を意識化しよう <input type="checkbox"/> 里木を探そう <input type="checkbox"/> 木のあるところ/ないところ	<セッション4> 地域の課題に取り組もう <input type="checkbox"/> 対比表 <input type="checkbox"/> 力の分析	<セッション7> 問題解決のプロセスをデザインしよう <input type="checkbox"/> 問題解決に向けたプロセスづくり <input type="checkbox"/> シナリオづくり(シュミレーション)
<セッション2> 生態系と社会システムについて考えよう <input type="checkbox"/> 貿易ゲーム森林版 <input type="checkbox"/> 合意形成のために	<セッション5> 地域を調査しよう <input type="checkbox"/> インタビュー(公園管理者、市民、市役所、ケーブルテレビ局)	<セッション8> 成果物を作ろう <input type="checkbox"/> 成果物の作成 <input type="checkbox"/> 発表
<セッション3> 地域の課題を聞こう <input type="checkbox"/> ゲスト・スピーカー <input type="checkbox"/> ビデオ	<セッション6> <input type="checkbox"/> 調査をまとめよう	<セッション9> ふりかえり <input type="checkbox"/> 研修の感想

研修2日目には台風の影響を受け研修内容を変更したものの、参加者は3日間を通して“参加型で伝える 12のものの見方・考え方**”の12通りすべてを体験し、具体的な成果として模造紙上で確認することができました。

*PLTとはProject Learning Treeの略です。樹木を自然界への「窓」として、身近な環境やその周りの世界への関心や知識を深めるアメリカで開発された体験型の環境教育プログラムのことです。

**参加型で伝える12のものの見方・考え方とは、次の12の視点をERICでは参加型で伝えています。

- | | | |
|------------|------------------|-------------|
| 1. 全体像をつかむ | 2. 対比させて考える | 3. 2次元軸で捉える |
| 4. 分類する | 5. 因果関係を考える | 6. 優先順位を考える |
| 7. 質的に捉える | 8. 時間的に捉える | 9. 空間的に捉える |
| 10. 指標で捉える | 11. シュミレーションで捉える | 12. 計画する |

「参加型で伝える12のものの見方・考え方」(ERIC発行より)

来夏はぜひ、あなたの町でこの研修を実施したいと思います。
 自分の町で環境教育を実践したい方、地域の課題解決に参加型で取り組みたい方、ご連絡下さい。
 一緒に研修を創ってゆきましょう。

主催研修の予定

<STEP2 人間関係のスキル・トレーニングによって、課題解決のための基礎的な力を身につける>

1. 「対立から学ぼう」カリキュラムと教え方セミナー

対立は悪くないというメッセージとともに対立を扱うための10の基本概念を教材にカリキュラムとして子どもたちへ伝えることができる。

日 程:9月15日(土)ー16日(日)2日間(6セッション=12時間)

場 所:ERIC 国際理解教育センター(東京都北区東田端)

テキスト:「対立から学ぼう」4,000円 「対立は悪くない」1,000円

2. 「人権教育ファシリテーター養成講座」

被差別者への共感的な理解や差別構造の分析を人権を尊重するために何が出来るかを考える。

日 程:11月23日(金祝)ー24日(土)2日間(6セッション=12時間)

場 所:ERIC 国際理解教育センター(東京都北区東田端)

テキスト:「人権教育ファシリテーター・ハンドブック」2,000円

<STEP 3 「築き」のための参加型手法によって社会への変化のプロセスをつくる>

3. 「M.E.E.T. ザ・ワールド 海外ボランティア養成プログラム」

国際協力やボランティアについて学ぶ。PRA(主体的地域調査)の基本的な方法について演習をおこなう。またNPO(組織)のあり方について触れる。

日 程:2002年1月12日(土)ー14日(月祝)

3日間(9セッション=18時間)

場 所:ERIC 国際理解教育センター(東京都北区東田端)

テキスト:「12のものの見方・考え方」2,000円 「NPO運営マニュアル」3,500円

「地球家族フォトランゲージ版」2,500円

4. 「TEST(Training of Effective Skills for Teacher)教育力向上講座」

TESTとはTraining of Effective Skills for Teachersの略。学校の現状分析とカリキュラム作成を

「12のものの見方・考え方」を教材におこなう。同時に参加型学習手法を授業に応用できるようになる。

日 程:2002年3月23日(土)ー25日(日)3日間(9セッション=18時間)

場 所:ERIC 国際理解教育センター(東京都北区東田端)

テキスト:「未来を学ぼう」4,000円 「テーマワーク」2,500円

「参加型で伝える12のものの見方・考え方」2,000円

☆ジェンダー/GAP研修はご要望に応じて実施を計画いたします。ご相談ください。

☆各研修とも15名が定員となります。お早めにお申し込みください。(参加費は2日間=20,000円、3日間=30,000円です。)

テキストは希望者のみご購入頂いています。また、関連図書のみご購入も申し受けています。

☆お申し込みは、お電話または、下記のお申し込み用紙をFAX、E-mailにて、プログラム提供部(佐藤)宛にご送付下さい。

FAX: 03-3800-9410 E-mail: eric-net@try-net.or.jp 折り返し確認のご連絡をいたします。

ERIC 主催研修申し込み書

- 研修名
 お名前 (ふりがな)
 ご住所(〒)
 電話/FAX E-mail
 所属
 テキストの有無 参加費振り込み予定日
 1. 持参 2. 購入する 年 月 日

参加費の振込先 郵便振替 00180-5-710744 口座名称 ERIC 事務局

<ERIC へのご連絡事項>